

北

海学園大学人文学会

第3回例会

北海学園大学人文学会は北海学園大学人文学部の教員を中心として組織された学会です。第3回例会を行います。一般の方も、参加自由です。ふるってご来場下さい。

■日 時 平成22年7月23日(金) 午後3:30~5:00

■場 所 6号館3階 C31 教室

発表:上杉 忍氏(人文学部・英米文化学科・教授)

題:「ある黒人農民の世界」

※当日は、下に紹介した翻訳について、その背景を説明していただき、その内容をいくつかに絞ってお話していただく予定です。

セオドア・ローゼンガーテン著『アメリカ南部に生きる——ある黒人農民の世界』Theodore Rosengarten, *All God's Dangers: The Life of Nate Shaw*, Alfred A. Knopf, 1974 (上杉忍・上杉健志共訳、彩流社、2006年)、586頁+18頁。

原著は、1930年代アラバマ州のシェアロッパーズ・ユニオンに参加し、12年間投獄され、出獄後も節を曲げずに生き抜いた非識字者ネッド・コップが、原著者に語った彼の生涯の記録である。家族、黒人仲間、労働、農具、家畜、作物、害虫、従属と自立、白人との妥協と緊張、監獄生活など生活のすべての領域にわたる経験が驚くべき記憶力で具体的に語られており、一人の黒人の目を通して南部社会を生き生きと描いた社会史研究の新たな地平を切り開く作品としてジャーナリズムや学界から高く評価された。原著は、本人の語りを発音のまま表記し、彼が育った環境でしか使われない日常的表現が多用されており、その正確な日本語訳は不可能に近い。しかし、この作品は国際的に認知されるべき「古典」であり、これまでの経緯からしてこれを日本語に翻訳する責任は私にあると確信し、私は、実質6年以上を費やしてこれを完成させた。なお、本書には、私が作成した主人公の複雑な家系図や年表、解説も加えられている。

(書評:野村進『朝日新聞』2006年7月2日、秋元英一『社会経済史学』73巻2号、2007年、Yasufumi Higurashi『ブルース&ソング・レコーズ』No.72, 2006.)